

「常緑広葉樹の落葉(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

秋にドングリをならせるシラカシは、常緑広葉樹である。5月の上旬に花を咲かせ、5月の中旬から6月上旬に一斉に古い葉を落とす。動植物の「振る舞い」には、必ず何らかの意味がある。花を咲かせる時期と、新しい葉を出す時期が微妙にずれているところに、何か意味があるに違いない。

シラカシ以外の常緑広葉樹も、今の時期に葉を落とすはずである。私の勤務する大学構内にも常緑広葉樹は多い。私は、早朝に自転車で大学の中を一周して「教材研究」をすることにした。



左写真は、附属高校の脇にある「タイサンボク」(泰山木)の高木である。学内では最も大きい強い芳香のある白い花を咲かせる。花だけでなく、葉も大きい。ただし葉の大きさでは、アオギリに負けている。

タイサンボクも常緑広葉樹なので、今の時期、古い葉を落とすはずである。実際にタイサンボクの樹の下には、葉がたくさん落ちている。黄土色のものが多いが、濃い緑色のものもある。



タイサンボクの枝を見上げると、古い葉のある枝の先端部に、薄緑色の新しい葉が見える。下のほうの葉は茶色く変色し、今にも落下しそうに見える。私はもう一つ、興味深いことに気づいた。

一つの枝だけをよく観察してみよう。左写真の**A**の部分は、枝も葉も色が薄く、この春に成長した部分と思われる。その下の**B**は枝の色が少し濃く、葉も濃い



緑でツヤがある。しかし、まだ落葉する葉には見えない。その下の**C**の部分は、枝の色が明らかに違い、木材化している。その部位の葉は、変色しているものも多く、落葉寸前に見える。

実は、常緑広葉樹の葉の寿命は、1年とは限らない。もしかすると、タイサンボクの葉の寿命は2年なのかも知れない。寿命(芽吹きから落葉まで)を2年と仮定すると、この写真の様子は納得できる。